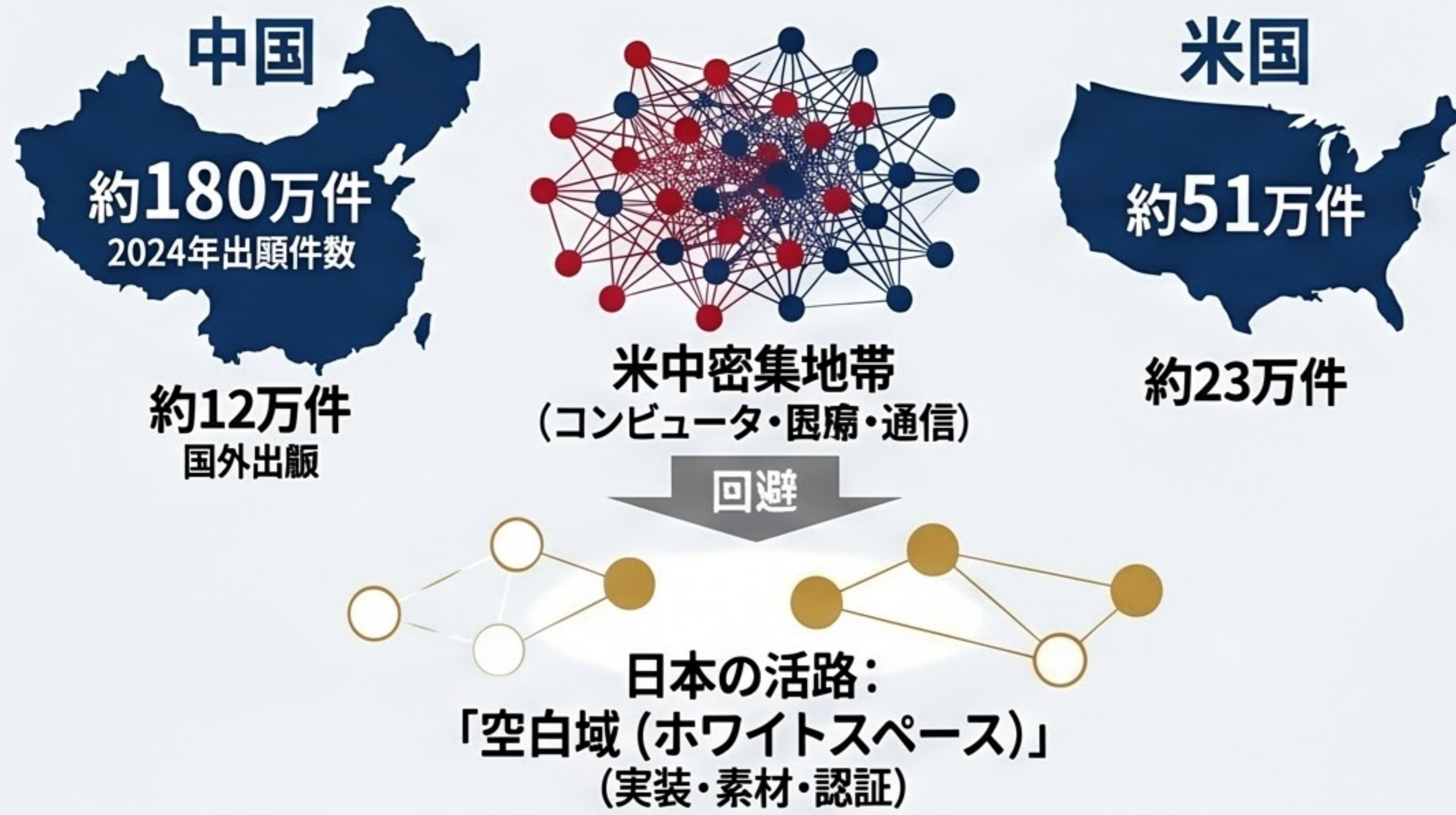


# 高市政権の知財戦略：米中の特許「空白域」に活路を見出す日本の新国家戦略

## 現状分析：米中二極化する特許のランドスケープ



## 戦略17分野における「空白域」の具体例 (抜粋)

戦略分野	米中の密集領域 (避けるべき)	日本が狙う「空白域」 (攻めるべき)
AI・半導体	汎用クラウドAI, 基盤モデル	フィジカルAI, AIロボット実装,
量子	量子ビット方式の覇権	部素材, 制御, 冷却, 古典計算機との融合
GX	太陽電池の量産・価格競争	ペロブスカイト等, 設置場所・規格・品質重視
マテリアル	一般的な素材開発	永久磁石リサイクル, 代替材, 分離精製
情報通信	5G既存SEP (標準必須特許)	APN (光ネットワーク), 海底ケーブル, 6G

## 戦略の実行フローと政策連関

空白域の抽出と  
分野選定  
(17戦略分野 x 米中密度 x 日本の優位)

法改正・制度設計  
(2026年ピーク)



越境実施の明文化  
仮想空間の意匠保護

大胆な税制優遇  
(2026年度改正)

40% 戦略技術  
研究開発

50% オープン  
イノベーション

35億円以上設備投資 即時償却

国際標準化戦略・公共調達



研究開発段階から標準化  
公共調達と運動

国内実装と海外展開



- ・公共調達・実証
- ・国際標準・認証
- ・審査特急対応 (PPH: 19.9→2.7か月)
- ・中小・スタートアップ支援 (訴訟保険助成)

## ロードマップと成功の条件



成功条件: 1. 選択と集中を徹底 2. 市場性を評価基準に 3. 民間投資を誘発 (補助金依存回避)